

JR 芦原温泉駅賑わい交流地区 都市再生整備計画事後評価委員会 議事録

日 時	令和 7 年 3 月 5 日（水） 15:00～16：20	
場 所	あわら市役所 2 階 203 会議室	
議 題	あわら市都市再生整備計画事業評価委員会	
出席者	委 員	野嶋 慎二（有識者） 小嶋 範久（有識者） 山岸 亜紀（有識者） 笹岡 太久磨（有識者） 廣部 雄一（三国土木事務所長） 竹内 将史（坂井農林総合事務所長） →代理：江川 裕幸（坂井農林総合事務所農村整備部長） 大味 雅彦（あわら市土木部長） 松井 義弘（あわら市土木部理事）
	事務局	細川課長、笠川課長補佐、木村主任、荒谷
（開会の挨拶）		
委員長	それでは協議事項（１）について、事務局の説明を求める。	
事務局	（協議事項（１）「事後評価制度及び都市再生整備計画の概要について」を説明） （委員に意見、質問を求める。）	
委員	優良建築物等整備事業の事業費 13 億円は建設費用という認識でよいか。	
事務局	その認識で問題ない。	
委員	基幹事業：東西自由通路と関連事業：自由通路整備事業は、それぞれ整備対象はどこか。	
事務局	関連事業：自由通路整備事業は道路局の補助を利用しており、主に道部分となる。 基幹事業：東西自由通路は都市局の補助を利用しており、壁や木材など道路では直接必要がない機能部分を対象としている。	
委員長	それでは、他に意見がないようであれば、次の審議事項について、事務局の説明を求める。	
事務局	（審議事項（２）「JR 芦原温泉駅賑わい交流地区における事後評価について」を説明） （委員に意見、質問を求める。）	
委員	指標 2「駅周辺整備に関する満足度」について、従前値：5%、目標値：55%と大きく数値に差があり、目標設定が無謀だったのではないか。 評価値は「そう思う」を対象としているが、「どちらかというと思う」も合計に含めた方が良いのではないか。	

	これにあわせ、目標値を変更した方が良いのではないか。
事務局	本計画を作成した当初段階で従前値：5%、目標値：55%としている。平成30年度あわら市民アンケート結果をご覧くださいと、「どちらかというと思う」「そう思う」の合計が27.2%となり、従前値（平成30年度時点）と合致しないため「そう思う」を評価値として採用している。本計画作成当時の担当者に確認したところ、具体的な数値設定根拠はなく、駅周辺に対し大規模な整備を行っているため、強気な目標値に設定したとのことだった。 指標3「JR 芦原温泉駅乗降客数」は従前値：3,600人、目標値：5,000人となっており、こちらについては具体的な数値設定根拠がある。福井県の想定で、北陸新幹線が開業することで、開業前と比べ交流人口が1.5倍になると予測されていたため、従前値の約1.5倍である5,000人を目標とした。 福井県に、目標値の変更は可能か問い合わせたところ、全てのハード整備が終了した後の変更はできないとのことだった。
委員	指標3「JR 芦原温泉駅乗降客数」について、評価値が令和5年度の数値となっており、新幹線開業後の乗降客数は令和5年度3月16日～3月31日間の2週間程度しかカウントできていない。 令和6年度には目標達成できるのではないか。
事務局	福井新聞(令和6年9月16日の記事)によると、開業から半年の時点で芦原温泉駅周辺に訪れる関東・北陸・信越圏からの来訪者数は前年同期比100%を超えており、今後増加が見込まれる。一方で本記事には、来訪者数が前年同期比より下がっている地域も挙げられている。これらを総合すると、芦原温泉駅の乗降客数：5,000人の到達は難しいと考えられる。
委員	私は坂井市民だが近年、芦原温泉駅周辺が変化してよくなったと思う。指標2「駅周辺整備に関する満足度」は、あわら市民を対象としたアンケートを基に集計しているが、芦原温泉駅の乗降客を対象とすると満足度は上がるのではないか。 指標2「駅周辺整備に関する満足度」、指標3「JR 芦原温泉駅乗降客数」については令和5年度の評価ではまだ効果が完全にでていないのではないか。令和6年度の結果も踏まえて検討すると良いのではないか。
事務局	おっしゃる通りである。今回の評価で終わりではなく、引き続きアフレアの利用者数やアンケート結果等、データとして残しておくべきだと考えている。 指標2「駅周辺整備に関する満足度」は、計測の定義が定められており、変更はできない。
委員	令和6年度以降のデータについて、公表は予定しているか。
事務局	検討させていただく。
委員	指標3「JR 芦原温泉駅乗降客数」指標4「駅前広場利用者数」について、乗降客数が減っているにも関わらず、駅前広場利用者が大きく増えている。駅前

	広場利用者数は鉄道利用者ではない方も含まれているのか。
事務局	鉄道利用者以外も含まれている。例えば放課後には高校生も多く利用しており、その他イベントや日常的に利用しているあわら市民も利用者数にカウントされている。
委員	例えば車であわら市内を旅行して、芦原温泉駅にも訪れた方もカウントされるのか。
事務局	芦原温泉駅にはお土産施設もあるため、そういった利用も想定される。
委員	駅前広場の利用者数も継続してカウントすることは可能か。
事務局	駅前広場の利用者は、(一社)アフレアが継続して集計・管理しているため可能である。 芦原温泉駅乗降客数も、鉄道会社から生活環境課がデータを受領しているため可能である。
委員	指標 4「駅前広場利用者数」の設定根拠について教えていただきたい。
事務局	指標 3「JR 芦原温泉駅乗降客数」と同様に、開業前と比べ交流人口が 1.5 倍になることを条件に設定している。 一方で指標 4 は従前値がないため、賑わいホール（広場）と観光案内・魅力体感施設に分けて想定している。 金津本陣にぎわい広場と観光案内所おしえる座あ（JR 芦原温泉駅前店）の年間利用客数を約 1.5 倍し、65,000 人としている。
委員長	それでは、他に意見がないようであれば、次の審議事項について、事務局の説明を求める。
事務局	（審議事項（3）「JR 芦原温泉駅賑わい交流地区における今後のまちづくりについて」を説明） （委員に意見、質問を求める。）
委員	先ほども継続してデータを計測していくという話があったが、ぜひ行っていただきたい。挙げられている課題は建設課だけではなく、他課や商工会、まちづくり活動団体なども関わってくる。 芦原温泉駅前のグランドデザインを決めていく必要があると思う。部署を横断した取り組みの実施や、明確な目標を決めた上でまちづくりを進めていく必要があるのではないか。あわら市長にも申し上げていく。
委員長	本審議事項について、適切に評価が行われていると認めて良いか。
全委員	異議なし。
委員長	本審議事項について、適切な評価が行われていると認める。 それでは、今後のスケジュールについて、事務局の説明を求める。
事務局	（協議事項（4）「今後のスケジュール」を説明）
	閉会時間(16：20)